

山頂から2センチ（地形図）の所に泊まったら（Eパーティ）

越後 泣沢口～未丈ヶ岳～銀山平

笹川

【日時】2007年4月7日～8日

【メンバー】笹川（L）、小川、高山

■4月7日 晴れ

シルバーラインの泣沢待避所で車を止め、佐貫さんが用意してくれた長靴に履き替えて、トンネルの扉へ向かう。扉を開けると水たまりとなっていて、その先は雪壁になっている。長靴から登山靴に履き替え、佐貫さん達とはここでお別れ。

登山道通りに行くと、渡渉が2回あるので渡れるか心配していたが、とりあえずは登山道を辿るように進む。しかし、雪が少なく登山道に行くのは、困難と判断し、尾根から黒又川の橋を目指すことにする。

尾根に上がるにもシュルンドが出ていて、少し嫌らしかった。早々に諦めてすぐに尾根に上がるのが正解だったようだ。

尾根を300M程上がったあたりで、対岸の登山道が見えてきたが、やはり雪は少ない。

黒又川にかかる橋は歪んでいて、対岸側は被った雪壁になっている。笹川が空身で登ったが、ピッケルをさした雪が腐っていて、バランスを崩し落ちてしまった。

尾根から見たときに、橋の下が釜になっていたので落ちて大丈夫と思ってはいたが、簡単に落ちてしまうとは情けない。

釜が深かったおかげで怪我をすることもなかったが、頭まで潜り全身ずぶ濡れになってしまった。草付きのルンゼにバイルをさし、雪壁をトラバースして橋に戻ったが、このトラバースも足元の笹が滑り悪い。

結局、ルートは変えられないと判断し、今度はスコップで慎重にステップを作り、ロープもつけてダブルアックスで登った。久々の越後の雪稜(?)で判断が鈍っていたのが、落ちた原因だと思う。幸い天気も良く、気温も高かったので、濡れても寒くは感じなかった。

ここから1000M付近までは、夏道が半分出ている状態だった。

登山道を登っていくと左手には以前遡行した水頭沢が見えるが、特に何もないといった印象を受ける。この登山道も水頭沢を遡行したときに下山で使用したルートだが、どうしても大田原さんが蛇を捕まえて満面の笑みを浮かべた姿以外のことを思い出せない。

それにしても沢にも尾根にも雪がなく、スキー班はどこを滑っているのかと心配になる。

当初は、P1204付近に泊まる予定だったが、時間もあつたのでもう少し進む事にする。



P1204から登りが続き、気がつくとも標高を稼いでいた。今日は、P1360付近でテントを張ることにする。

C1から山頂までは、1時間もかからないだろうと考え、起床を7時に決め就寝。

■4月8日 曇り

朝、起きるとガスが出ていた。また、朝ごはんの準備をしていたら雹が降ってきた。

こんな天気の中、山頂で待つのは大変だと思い、30分前に到着する予定で出発。

ハイマツが出てきた辺りで、いつものコールが聞こえてきた。やっぱり、みんな早いなと思ったら、私たちが最後でだいぶ待つて頂いた様子で申し訳なかった。

太陽が見え隠れする中、記念写真を取り下山。私たち以外は、空身なので頑張ってみんなについて行かなければならないと考えていたが、アップダウンが続く尾根で他パーティを追い越したり追い越されたりしながら日向倉山まで向かった。

未丈ヶ岳から南下すると、雪が多くなった印象を受ける。昨日は雪の少なさにどこを滑っているのか心配していたが、取り越し苦労だったようだ。

いつも2~3人パーティで行動することが多いので、日向倉山で、大勢でカキ氷を食べたりするのんびりした雰囲気は久々だった。こういった時間は会山行らしくて好きな瞬間だ。

日向倉山からは、先行しているスキーパーティを追いかけるように下る。スキーを着脱している間に追いつきそうだが、なかなか追いつかない。後から聞いた話だと、追いつかれないよう必死だった様子。私も高山さんと小川君の歩きについていくのに必死だった。

P1196から日帰り歩きパーティのトレースを使わせてもらう。既に下山しているパーティの様子を伺いながらシリセードで下った。



【地形図】 未丈ヶ岳、奥只見湖

【行程】

4/7 シルバーライン泣沢口 8:05 - 泣沢右岸尾根 - 黒又川 (橋) 11:40 - 松の木ダオ
13:40 C1 (P1360付近) 15:30

4/8 C1 8:45 - 未丈ヶ岳 9:30 - 銀山平 14:00

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>